

山の百の花

滝足倉 青柳 きみ子

【13】キレンゲシヨウマ

キレンゲシヨウマの花の名を初めて知ったのは、宮尾登美子の小説「天涯の花」を読んだ時でキレンゲシヨウマの花は「月光のように澄み清らかに輝き凜として気高い花」と、描かれており是非見たい花となりました。

花の存在を知ってから、何年も過ぎた昨年の 8 月 10 日、その花を見るために剣山に行ってきました。

広葉樹林を抜け立派なブナが数本立っている追分を右にまくと、登山道には夏の花々が目を楽しませてくれます。

花畑を過ぎると行場はすぐ、くさり場の横の急斜面にその花は咲いていました。

写真を撮るのも忘れて見とれるほど、美しいレモンイエローのたくさんの小花が掌状葉の上に茎をのびし、釣鐘形の肉厚の花を咲かせています。

キレンゲシヨウマは、日本人が初めて属名を創った一属一種の植物だそうです。葉や茎の感じがレンゲシヨウマに似ているの

でその名が付いたそうで、レンゲシヨウマはキンポウゲ科、キレンゲシヨウマはユキノシタ科です。

暑い暑い剣山でしたが、長い間会ってみたいと思っていた人に、会う事が出来たような楽しい山行でした。



【14】ヒナザクラ

サクラソウ科、サクラソウ属の多年草。雪解け間もない湿原に、真白い花を咲かせる小さいヒナザクラの姿は何とも可憐で、東北地方の早春を代表する花だと、私は、えこひいきしている。

乳頭山の田代平や平沼ヶ原でも、群落を

見たことがあるが、何と言っても、秋田駒ヶ岳の阿弥陀ヶ池、浄土平の大群落は素晴しかった。

湿原に、何処までも点々と白く咲くヒナザクラも、ひとつは小さく草丈 7 センチ程 4〜5 輪の花を付ける。

ルーペで覗くと、サクラソウ独特のハート型の五弁花で花芯は黄色く 5 つの雄しべが見える。この花の可愛さを写真で撮るのは難しく、良いカメラと腕が必要らしい。気に入った絵ハガキを、「私の花手帳」に貼っているが、いつか良い写真を撮りに、6 月の秋田駒に出掛けようと思う。

厳しい冬を乗り越えて、はじけたように一斉に花々が咲いている様は、山を登って来た者へのご褒美のような気がして、山の花が大好きである。

